



第2回全国HMN協議会総会



第1回ヘリテージマネージャー大会

第56回建築士会全国大会「しまね大会」の開催に合わせて、第2回全国ヘリテージマネージャーネットワーク（HMN）協議会総会（10月18日）と、第1回ヘリテージマネージャー大会（10月19日）が行われました。

■ヘリテージマネージャーについて

私自身、平成24年度の地域文化財専門家研修を受講したばかりで、ヘリテージマネージャーとしてはこれからといったところですが、今年7月に設立された静岡県ヘリテージセンター（SHEC）の活動に参加している縁もあり、今回、全国ヘリテージマネージャー大会にも参加してまいりました。（なお、「ヘリテージマネージャー（HM）」という呼称ですが、各地によって異なり、静岡県の場合は「地域文化財専門家」と称しています。）

私がこれまで建築士として活動する中で感じていたことの一つですが、身近な歴史的建造物とどうかかわっていったらよいかということがあります。どのように修理したらいいのか、さらには、それらを活用してまちづくりや景観形成に活かしていくことはできないか、といった課題です。しかし、本などから知識を得ることはできても、なかなか実際に歴史的建造物に関わるチャンスもないし、実践的な経験も蓄積されない、というような状況でした。そんな時にたまたま受講した地域文化財専門家研修ですが、私にとっては、建築士としての活躍の場が広がるチャンスのように感じられました。一方で、人材育成に限らず、HMの横のつながりや関連団体との連携等、ネットワークづくりも大切なものであると改めて知ることとなりました。

もともとHM養成は2001年に兵庫で始まり、全国各地に広がっています（静岡県では2008年から）。その全国各地からHMが集まる大会の第1回という記念すべき場に参加できたことはよかったですし、今後の活動にも活かしていけると思います。

前置きが長くなりましたが、簡単に大会の様子を報告いたします。

■第2回全国HMN協議会総会

昨年10月に全国HMN協議会が設立され、今回は2回目の総会です。運営委員長の後藤治先生はじめ、SHECのような全国の地域ネットワーク（8団体）の代表、HM養成講座を担当している部門の代表など、46名が参加して行われました。

ここでは、協議会としての取組課題が、全国のHM関連団体から寄せられたアンケートをもとに議論されました。また、各地のHMが抱えている課題について、各テーブルを中心に活発な意見交換がされました。地域によって抱えている課題は異なっており、活動内容も違うのですが、このような定期的な交流の機会は大切であると感じました。

■第1回ヘリテージマネージャー大会

大会のテーマは、「地域の歴史的建造物とヘリテージマネージャーネットワークの役割」ということで、4つの事例報告と大会声明発表が行われました。

事例報告では、「歴史まちづくりネットワークの実践」と題して、SHECセンター長の塩見寛さんも発表を行い、SHECの目的や活動内容について報告されました。

また、参加者一同の名のもとに、「第1回全国ヘリテージマネージャー大会声明」が発表され、具体的な数字も入った「今後7年の目標」として、次のことが提唱されました。

- 一 全国の重要伝統的建造物群保存地区の数を倍にし、その国家予算を10倍にしましょう。
- 一 歴史まちづくり法の要件を緩和して、同法の重点区域を全国各地に広げ、200地区としましょう。
- 一 これらの運用の主体的な役割をヘリテージマネージャーが果たしてまいりましょう。

これらの目標が現実のものとなるためにも、全国のHMが今後さらに連携・交流を深めていくことが大切であり、そのスタートとなる大会だったと思います。

（H24「地域文化財専門家」研修生 石橋 剛）